

私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています



# 土浦平和の会

ニュースNo. 159 2005年9月

発行 土浦平和の会

事務局 土浦市神立町2664-2

TEL 831-9122

[http://www.geocities.jp/ino011\\_jp/](http://www.geocities.jp/ino011_jp/)



## ‘05 平和の旅

と き 10月23日(日) 24日(月)

行き先 松代大本営跡(本土決戦最後の拠点として

建設された大地下壕と天皇御座所)

小布施北斎館(浮世絵の葛飾北斎が晩年逗留した

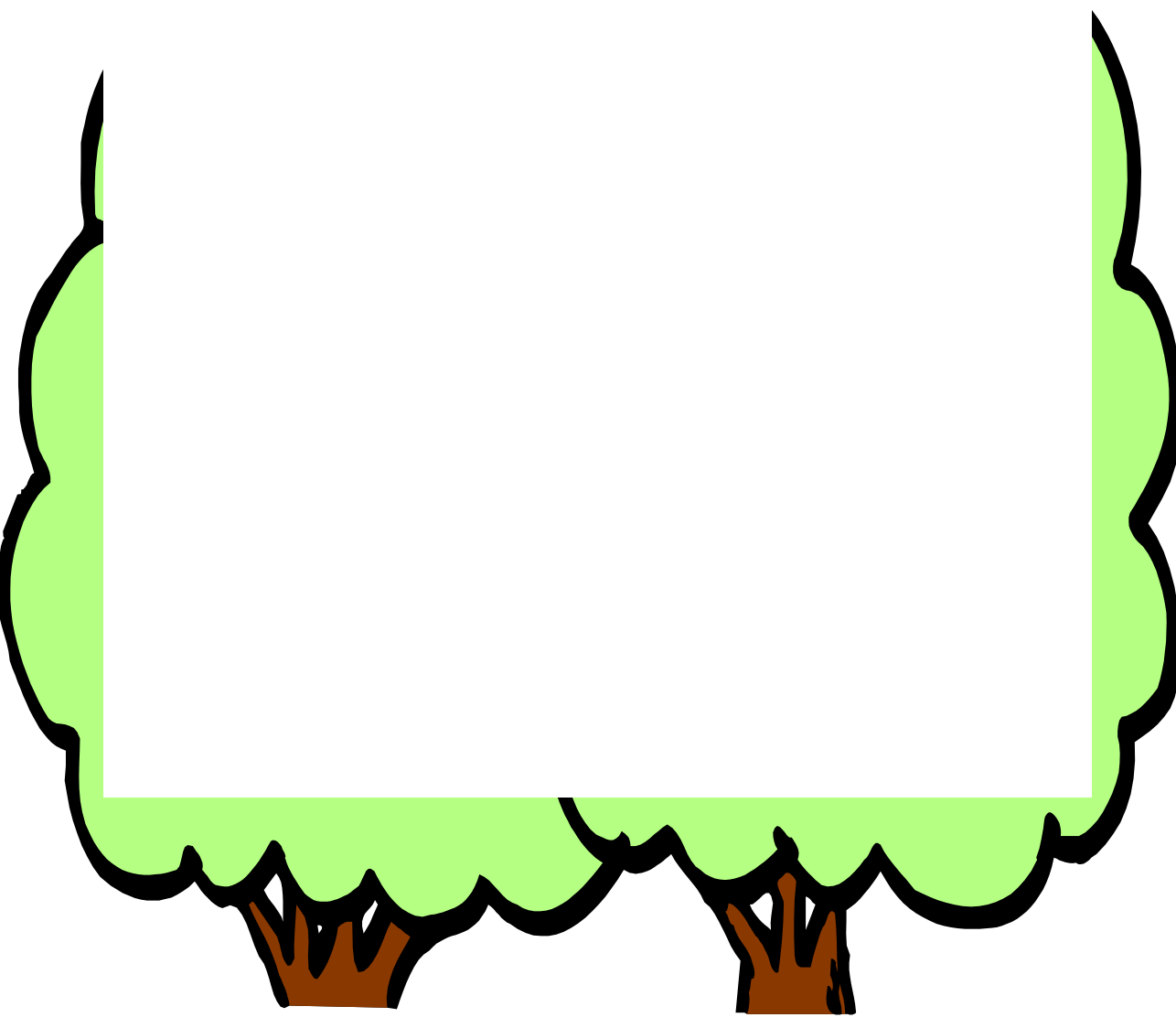
町にある天井絵、掛け軸、屏風絵など多数)

その他希望があれば 小諸懐古園、無言館など

宿 泊 保科温泉 国民宿舎永保荘(えいほそう)

参加費 2万円(宿泊費、交通費)

締切り 9月30日(日)



土浦平和の会ニュース、平和かわら版（茨城県平和委版）配信しています。早い、確実に届くご希望の方はeMailアドレスご連絡ください

## ‘05原水禁世界大会に参加して

土浦工業高校2年 佐藤進也

初めて原水禁世界大会に参加しました。まだ見ぬ広島へ全国各地から、世界中から、いろんな人たちが集まってきて、それぞれがいろんな想いを持っているんだろうと思うとわくわくしました。

茨城県から青年6人で千葉県の青年バスに合流して参加しましたが、夜行バスは長距離ですがにこたえました。

1日目総合体育館のグリーンアリーナで開かれた開会総会は平和への想いを胸に8,000人以上の人が集まりました。2日目の分科会では、自分はフィールドワークで現地の被爆者に逢い、原爆の体験や戦争のいろいろな話を聞きました。その内容は想像を絶するものでした。原爆を受けた人々は、皮膚が焼け爛れて見るも無惨な姿だったそうです。死んだ人を焼いた重油の臭いが忘れられないという人もいました。その惨状を次世代へ語り伝えようと話す人も辛い、初めて聴くほうもつらかった。戦争とはとても胸の痛くなるものだと感じました。3日目の平和記念式典での小泉首相のスピーチはアメリカ重視の首相だけあって、たいした内容ではないという感じでした。そのことは拍手の様子にも現れていました。

最後になりましたが、平和の会の皆様方よりのカンパありがとうございました。おかげさまで有意義に旅を終えることができました。

## 「戦後60年平和のつどい」開催される

8月14日、土浦市民会館において「戦後60年平和のつどい」がおこなわれました。本年は戦後六十年目にあたり、これまでの「終戦記念日を考える市民の集い」をさらに幅広い実行委員会を結成して集会を開く事が出来ました。

最初に福田勝夫氏から「戦争をできる国にしてはならない」と基調報告があった後、経済・政治評論家佐高 信氏による「戦後六十年の表と裏」と題した100分間の講演がありました。

講演では佐高氏は、戦争の事実を子どもたちに語りつぐことの大切さ、人間が人間を殺す法律をつくってはならないこと、軍服を着た人が正当化されることがないようにしたいと強調しました。また、郵政民営化は大銀行とアメリカの為であり、郵政事業を会社化し利益第一の企業化すること。かつて、日本長期信用銀行に4兆円の公的資金をつぎ込み、新生銀行としてアメリカに10億円で売却した。国鉄民営化は安全より利益を優先して事故を起こしている。官僚のトップの大蔵省と銀行の言いなりになり郵政民営化が進められていると問題点を指摘しました。

今回の集会は300人が参加し、参加者からは「戦後の表と裏の内容が良くわかり充実した講演でした」という意見が多く、成功をおさめることができたと思います。 船津 寛

### 活動ごよみ

9/17 県平和委理事会（水戸県立青少年会館）

9/25 土浦平和の会理事会（保健生協事務所）

10/23・24 平和の旅（松代大本営跡）